

「ボールとのかかわり」

	誕生	8ヶ月	10ヶ月	1歳	1歳3ヶ月	1歳半	2歳	2歳半	3歳	4歳					
運動発達の流れ (発達の特徴や具体的な姿)	原始反射 手足をバタバタさせる 首がすわる 寝返りをする ずり這いをする 興味のある方をじっと見る 手を出して物を掴む	腹這いを する お座りを する 「いないいないばぁ」を喜び	つかまり立ちをする 自分で立つ 「いないいないばぁ」を喜び	歩き始める 伝い歩きをする	自由に歩き回る しゃがむ 小さい物をつまむ	歩行がスムーズになる 階段を這ってあがる 高い所に登る(40cm程度)	一段毎足をそろえ階段を昇り降りする つま先で歩く 1本線を歩く	走る 両足とびをする 高い所から跳び降りる(20~30cm程度)	交互に足を出し階段を昇り降りする 平均台を横歩きする	平均台を前向きに歩く 片足ジャンプをする	三輪車がこげる でんぐり返しをする けんけんをする ギャロップをする				
経験してほしい遊び	追視する→ぶら下がっているものをつかもうとする	たたく 転がす	持ち歩く→両手で複数のボールを持つ	蹴る	両手で放り投げる	ボールを両手で受け取る	バウンドしたボールを受け取る	ボールのやり取りをする	追いかける→転がっているボールを追いかける	拾って投げる 手渡す 箱に入れる	動いている箱に入れる	相手に向けて転がす	ボールを運ぶ	投げ入れる	投げたボールをつかむ
各年齢に共通する保育者の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に、個々の体力や技能面の発達状況を把握しながら対応し、必要に応じて援助する。</li> <li>けがをしないように、そばで見守る。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>※設定場所の周りに遊具が落ちていないか確認をするなどの安全対策を行い、動きの空間を保障する。</li> <li>※状況により人数を制限する、場を分散させるなどの工夫をする。</li> </ul>								
発達に応じた保育者の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>色のきれいなもの、はっきりした色のボールを用意する。</li> <li>子どもが持ちやすいもの、感触の良いものを用意する</li> <li>1対1でじっくり関わりながら、ボールに興味を持てるようにしていく。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが持ちやすい大きさのボールを用意する。</li> <li>大きめのボールを「抱っこしてごらん」と保育士が手を添え、持ち方を知らせていく。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>徐々に順番を知らせ、簡単なルールのある遊びを伝えていく。</li> <li>子どもが受け取りやすいように意識して投げ、受け取れた満足感を味わえるようにする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが一か所に集中しないように遊びを工夫していく</li> <li>待つことが難しいので、待たなくても済むように少人数で行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>紙でっぼうや紙ひこうきで遊び、投げる感覚を経験できるよう丁寧に伝える</li> </ul>		
環境構成	<p>*乳児期にふさわしいボールを使用する：布製で鈴などが入った物、柔らかい感触の物、はっきりとした色の物、子どもが握りやすい大きさの物（10cm位）</p>														